

発炎筒使用のリスク(従来)

●安全面のリスク

- 通行車に対する注意力の散漫 …… 点灯するため手順を踏む必要がある。
- 危険地帯の滞在時間増加 …… 消火作業・回収作業があり危険地帯からすぐに離れられない。
- 法面火災発生リスク …… 強風による発炎筒の転がり・火の粉の飛散等。
- 使用環境下での危険性 …… 豪雨、水溜り、積雪等の環境下では消える場合もある。
- トンネル内使用時のロスタイム …… トンネル内使用時は、管制室に発炎筒使用許可得てから使用。

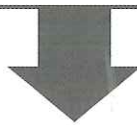
●環境面のリスク

- 路面の損傷及び残存物の発生 …… 路面が損傷する。燃えガラ(白い固形物)が路面に残る。
- 産廃処理費用の発生 …… 火薬が残った状態で回収するため、産廃での処理が必要となる。



●保管

- 火薬取締法対象品のため貯蔵に制約 貯蔵が 300 本(25kg) までと制約がある。



このようなリスクを「ピカッチ」が解消

視認性実験

甲府管内の各グループ会社立会いのもと、視認性の実験を行った。
その結果、昼間の発炎筒よりも視認性が勝るという認識で一致した。(夜間についても確認)。

使用状況

- 規制標識設置・撤去
- 簡易路肩規制
- 予告テーパー設置箇所
- 路面標示工等常に移動を伴う作業



■ 予告テーパー設置箇所



■ 簡易路肩規制

(製造元)

株式会社 エル・シー・エフ

〒223-0053

神奈川県横浜市港北区綱島5-13-39

(企画・販売元)



中日本ハイウェイ・メンテナンス中央株式会社

東京都八王子市旭町12-4

日本生命八王子ビル4F 〒192-0083

TEL:042-660-0801 FAX:042-660-0505

<http://www.c-nexco-chuoh.jp>